

**第2期荒尾市教育振興基本計画
令和5年度数値目標報告書**

令和7年3月

荒尾市教育委員会

「第2期荒尾市教育振興基本計画の進捗状況」の 点検及び評価について

1. 第2期荒尾市教育振興基本計画（計画年度：令和4年度～令和8年度）の進捗状況に関する点検・評価

第1期計画に引き続き、「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価」により計画の進捗状況を点検・評価し、必要に応じて改善を図ることとする。

2. 点検・評価の方法

「第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧」により、第2期荒尾市教育振興基本計画に掲げる数値目標の達成状況の確認を行う。

また、基本方針に基づく主な取組状況について、「第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況」により、前年度の主な取り組み内容や課題点等について評価し、目標達成のために改善が必要な事項等については、次年度以降の改善に繋げていく。

第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧

【基本方針1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	達成 状況	所管課	測定方法
1-1 確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査正答率	小学校国語	全国平均を 上回る	68.0% 全国平均(64.7%)を 上回る	65.0% 全国平均(65.6%)を 下回る	63.0% 全国平均(67.2%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		小学校算数		71.0% 全国平均(70.2%)を 上回る	62.0% 全国平均(63.2%)を 下回る	55.0% 全国平均(62.5%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校国語		61.0% 全国平均(64.6%)を 下回る	64.0% 全国平均(69.0%)を 下回る	64.0% 全国平均(69.8%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校数学		51.0% 全国平均(57.2%)を 下回る	40.0% 全国平均(51.4%)を 下回る	41.0% 全国平均(51.0%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を 上回る	80.7% 全国平均(78.2%)を 上回る	74.2% 全国平均(72.2%)を 上回る	69.9% 全国平均(78.8%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校		77.6% 全国平均(81.0%)を 下回る	73.2% 全国平均(79.2%)を 下回る	74.7% 全国平均(79.2%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	生徒が英語力を身に付けた割合	英検3級相当 取得率 (中学3年生)	40.0%	30.2%	23.7%	23.3%		学校教育課	英語教育実施 状況調査
1-2 未来を拓く力の育成	「将来の夢や目標」を持っている児童生徒の割合		全国平均を 上回る	69.3% 全国平均(74.5%)を 下回る	71.2% 全国平均(73.5%)を 下回る	75.2% 全国平均(73.9%)を 上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と思う児童生徒の割合			69.6% 全国平均(68.4%)を 上回る	70.1% 全国平均(69.8%)を 上回る	— ※1		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	学校情報化優良校の認定取得割合		80.0%	7.7%	92.3%	100.0%	達成	学校教育課	日本教育工学協会「学校情報化 認定制度」

※1 当該年度の全国学力・学習状況調査での設問無し。

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	達成 状況	所管課	測定方法	
1-3 豊かな心・健やかな体の育成	「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	70.2% 全国平均(76.9%)を下回る	77.8% 全国平均(79.3%)を下回る	73.1% 全国平均(80.0%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
		中学校	全国平均を上回る	75.3% 全国平均(76.2%)を下回る	72.4% 全国平均(78.5%)を下回る	74.9% 全国平均(83.5%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
	毎日、朝食を食べる児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	93.9% 全国平均(94.9%)を下回る	94.8% 全国平均(94.4%)を上回る	91.8% 全国平均(93.9%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
		中学校	全国平均を上回る	94.0% 全国平均(92.8%)を下回る	89.9% 全国平均(91.9%)を下回る	89.8% 全国平均(91.2%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国平均を上回る実技種目数の割合(全国平均を上回る種目数/対象種目数)	小学校	全ての実技種目で全国平均を上回る		男子:7/8 女子:7/8	男子:4/8 女子:5/8	男子:7/8 女子:7/8		学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
		中学校			男子:7/9 女子:6/9	男子:9/9 女子:9/9	男子:8/9 女子:8/9		学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
1-4 人権を守る教育の充実	「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	96.7%	97.1%	96.8%		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
		中学校	100%	95.8%	95.1%	97.6%		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
	「人が困っているときは、進んで助けている」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	85.9%	89.3%	90.8%		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
		中学校	100%	88.5%	85.5%	87.4%		学校教育課	全国学力・学習状況調査	
1-5 幼児教育・義務教育から高校教育までを見据えた教育環境の魅力向上	荒尾市で子育てをしたいと思わない理由として「子供の教育環境が充分でないから」を挙げる人の割合		36.5%	46.5%	33.3%	46.9% ※1		教育振興課	まちづくりアンケート	

※1 「荒尾市で子育てをしたいと思いませんか」というアンケート回答「そう思う26.3%、どちらかといえばそう思う48.9%、どちらかといえばそう思わない11.9%、そう思わない4.5%」の内、どちらかといえばそう思わない、そう思わないの層16.4%に対して実施したアンケートにおける割合を示したものの。

【基本方針2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	達成 状況	所管課	測定方法
2-1 多様なニーズに対応した教育の 推進	「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と評価する学校の割合	小学校	100%	90.0%	100%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校	100%	100%	100%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
2-2 教育相談及び教育支援体制の 充実	適応指導教室(教育支援センター) の整備数		4拠点	2拠点	4拠点	4拠点	達成	学校教育課	整備事業取組 状況
	不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合		100%	89.1%	92.6%	100.0%	達成	学校教育課	定例報告(専門 家の活用状況)
2-3 学びと育ちの支援	就学援助制度の認知度		100%	—	—	83%		教育振興課	保護者アン ケート等

【基本方針3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度 ※1)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	達成 状況	所管課	測定方法
3-1 人生100年時代を見据えた生涯 学習社会の実現	市立図書館来館者数	150,000人	21,773人	284,244人	228,016人	達成	生涯学習課	事業実施状況
	中央公民館来館者数	※2(令和7年度) 44,590人	20,404人	28,124人	30,993人		生涯学習課	事業実施状況
3-2 生涯スポーツの振興及び生涯学 習活動施設の整備充実	スポーツに関する環境の満足度	41.8%	33.3%	33.8%	36.1%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
	運動習慣がある人の割合	※2(令和7年度) 男性:63.0% 女性:48.0%	男性:56.0% 女性:45.0%	男性:57.0% 女性:42.0%	男性:61.0% 女性:46.0%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関 する学習機会の充実	文化・教養に関する環境の満足度 ※1	45.0%	35.3%	38.6%	42.8%		文化企画課	まちづくりアン ケート
	小中学生対象郷土学習の参加者数 ※1	700人	242人	524人	2,179人	達成	文化企画課	事業実施状況

※1 計画策定時の現状値について、基本的施策「3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」については令和2年度の実績値を記載。

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。

令和8年度については、実績値をもって評価検証。

【基本方針4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	達成 状況	所管課	測定方法
4-1 教育環境の整備・充実	コミュニティ・スクールにおける「学校の教育環境の整備・充実」についての評価点数	※2(令和7年度) 3点以上/4点	—	3.77	3.31	達成	学校教育課	コミュニティ・スクールにおけるアンケート
4-2 学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進	教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合	100%	—	35.5%	39.8%		教育振興課	タイムカードシステムから抽出
4-3 児童生徒の安全確保	各学校危機管理マニュアルの点検・見直しを実施した学校の割合	100%	—	100%	100%	達成	学校教育課 教育振興課	学校アンケート等
4-4 家庭、地域、学校の連携・協働の推進	地域学校協働活動推進員の発掘による支援ボランティア活用延べ人数	6,500人	6,624人	6,525人	6,752人	達成	生涯学習課	事業実施状況
	学校支援ボランティア延べ人数	※2(令和7年度) 28,240人	23,899人	23,114人	29,361人	達成	生涯学習課	事業実施状況
4-5 感染症や自然災害等のリスクを踏まえた持続的学びの確保	遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていると評価する学校の割合	小学校	100%	80.0%	80.0%	70.0%	学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	66.7%	66.7%	70.0%	学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。令和8年度については、実績値をもって評価検証。

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和5年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●「進化型あらおベーシック」授業の定着と質の向上 新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子どもたちが自ら課題を発見し、解決していく学習「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指し、平成30年度から展開している授業改善アドバイザー事業を中心に児童生徒を主体とした協働的な授業づくりを推進した。 ●授業改善アドバイザー事業 授業改善アドバイザーを招聘し、4月に荒尾市に赴任した全ての教職員を対象に「進化型あらおベーシック」研修会を実施した。 また、同アドバイザーによる学校への直接訪問指導を年間計13回実施した他、学力向上対策部会、学力向上地域支援事業等で本事業への支援を行うことで、教職員の指導力向上を図り、誰一人取り残すことのない学力の育成に努めた。 	<p>「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指した取組は6年目となりますが、基本的施策「1-1確かな学力の育成」における数値目標の達成状況はまだまだ低い状況である。</p> <p>小学校では、全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均に及ばなかったものの、総合学力調査や県学力状況調査の正答率においては、全国、県平均を上回った。中学校では、全国平均には及ばないものの県平均との差が縮まる傾向にある。県学力状況調査の正答率においては県平均を超える教科もあった。</p> <p>一方で、学力の未定着層の児童生徒も少なくなく、学力の二極化が課題となっている。誰一人取り残すことなく学力を保证するため、今後も「進化型あらおベーシック」授業による全員参加、一人一人が活躍する授業づくりを目指す必要があり、今後も授業改善アドバイザーによる派遣指導等を活用し、市内全小中学校で「進化型あらおベーシック」授業を定着・充実をさせていきたいと考えている。</p>	学校教育課
	英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●英語教育充実事業 ●英語検定チャレンジ事業 英語教育に関わる小中学校の教員を対象とした研修を年間3回実施し、授業研究会や小中学校の授業における成果と課題等を共有することで、英語教育のスキルアップを図った。 また、市内中学校の1年生から3年生までを対象とし、実用英語技能検定（英検）について、生徒の希望級の受験料を市が負担して実施（財源として荒尾子ども未来基金及び県補助金を活用）することで、生徒全員が英検に取り組む体制を構築し、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上に努めた。 	<p>児童生徒の英語力および学びに対する意欲は、学年が上がるにつれて低下する。数値目標「生徒が英語力を身に付けた割合（CEFR A1レベル相当以上取得）」についても、23.3%と目標の40%に達していない状況にある。</p> <p>今後ますます社会のグローバル化が進み、英語力の必要性が高まると考えられる。英語教育をさらに推進し、英語授業における教員の指導力向上とともに、学校教育活動を通じた英語の日常化を図り、本市の子供たちが、社会に出て通用する英語力を身に付けることができるよう、継続的に取組を進めていく。</p>	教育振興課

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
<p>1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する</p>	<p>ICTを活用した教育の充実</p>	<p>●小中学校ICT環境整備事業 GIGAスクール構想により整備したタブレットの整備・運用に加え、ICT支援員を配置し機器の活用等に関する支援を行う等、学校における校務支援を含む、ICT環境整備及びその活用を推進した。 また、令和5年度は教職員の出勤簿や出張命令書等のサービスを管理する校務支援システム「ゆうnet」を導入し、事務の効率化による教職員が授業に専念できる環境整備を進めた。</p> <p>●一人一台端末を活用した学習の推進 これまでの教育実践の蓄積と合わせてGIGAスクール構想により整備したタブレット等のICT機器活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋げることができた。</p>	<p>基本施策「1-2未来を拓く力の育成」における数値目標「学校情報化優良校の認定取得割合」は令和5年度は100%と令和4年度の92.3%に続き、令和8年度までの目標値である80%を超えることができた。 タブレットや電子黒板等のICT機器は、思考を可視化し表現することや他者と交流するなど、学習内容の理解を深めたりする際に効果的であり、これまでの教育実践の蓄積と合わせてICT活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋がっている。 今後の課題として、ICTの活用が授業の目的となってしまうことがないように教職員一人一人の授業改善を進めていくことや、家庭学習等でのICT活用の推進が必要と考えており、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図ることができるよう、継続して取組を推進していく。</p>	<p>学校教育課 教育振興課</p>

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
<p>2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する</p>	<p>不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保</p>	<p>●中学校フリースクール事業 ●小袋教室事業 平成13年度に校外教育支援センター（小袋教室）1か所を開設、令和2年度に、荒尾第三中学校に校内教育支援センター（ハートフルルーム）を設置。 令和4年度には荒尾海陽中学校と荒尾第四中学校内に校内教育支援センター（ハートフルルーム）を設置し、全ての公立中学校に教育支援センターを開設し、不登校児童生徒の居場所づくりに取り組んでいる。 市内の不登校児童生徒が第三の居場所として活用し、社会的自立に向けた第一歩を踏み出すことができ、令和5年度の利用実績は、校外教育支援センターと校内教育支援センター合計で49名の不登校児童生徒が活用することができた。</p> <p>●心の教室相談及びスクールソーシャルワーカーの活用 様々な悩みを抱える生徒及びその保護者に対し、各中学校に配置した心の教室相談員が適切に教育相談を実施し、生徒等の心に寄り添った対応を行った。 また、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置し、福祉等の関係機関との連携や情報共有を行いながら、様々な課題を抱える児童生徒等への早期支援や相談体制の充実に努めた。</p>	<p>基本的施策「2-1多様なニーズに対応した教育の推進」の「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合」、「2-2教育相談及び教育支援体制の充実」の「教育支援センターの整備数」の数値目標は令和4年度に続き、令和5年度も達成することができた。 さらに、「不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合」も目標の100%に到達している。 今後の課題として、中学校の不登校生徒に対する支援が進んでいるが、小学校における不登校児童は増加傾向にあり、その児童に対する支援が課題となっている。 中学校に開設している校内教育支援センター（ハートフルルーム）で培ったスキルを活かし、小学校へも取組の幅を広げていくことにより、不登校児童の減少に繋げていく。 また、不登校対策をはじめ、多様化する児童生徒等の問題に対する適切な相談対応等を行っていくための人員体制の確保・維持が課題となっていることから、様々なネットワークを活用し、人材確保に努めていく必要がある。</p>	<p>学校教育課 教育振興課</p>

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
<p>3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する</p>	<p>生涯学習の学びの機会や場の充実</p>	<p>●新図書館を活用した読書活動の推進 開館1周年記念で多世代が参加しやすいイベント(児童文学・有名作家のトークショー、子ども向けスタンプラリー等)を開催。作家のトークショーは令和5年度より会場をセンターコートに移し、事前申込不要としたことで、買い物客なども気軽に参加できる取組となり、多様な人々の読書活動の推進が図られた。また市民団体や行政の取組に合わせた特設本コーナー、DVD上映などによる学びの場(干潟、文化遺産、人権啓発、男女共同参画等)の提供等にも努めた。</p>	<p>図書館移転後2年目となり、基本的施策「3-1人生100年時代を見据えた生涯学習社会の実現」における「図書館来館者数」は、令和4年度からは減少しているが令和8年度までの目標値を大きく上回る228,016人となった。中高生の学習利用も多く、子どもたちが日常的に過ごす場所として定着している。課題として貸出冊数が目標に達していないため、来館者が本に興味を持ち、借りたくなるような取組を強化していく必要がある。</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する</p>	<p>生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実</p>	<p>●スポーツ環境の整備・充実 運動公園施設は、老朽化が目立つ状況にあるため、計画に基づき、既存施設の改修等の長寿命化に取り組んでいる。 令和5年度はサッカー場防球ネット改修や運動公園内の遊具改築等を実施し、様々な世代がスポーツに親しむための環境整備・充実に努めた。</p>	<p>基本的施策「3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実」における数値目標については、微増傾向が見られたものの、R8年度目標値には達していない。 今後、老朽化した市民体育館等の運動公園施設更新の検討を進め、スポーツ環境のさらなる充実に努める必要がある。 また、中学校部活動の地域移行が進められる中で、指導者確保や地域の受け皿整備も課題となっており、計画的に取り組む必要がある。</p>	<p>生涯学習課</p>

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
<p>3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する</p>	<p>ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実</p>	<p>●青少年交流事業（文化交流の推進） 令和元年9月に本市がシンガポール国家文物局と締結した、荒尾市宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋記念館・晩晴園との施設間交流を礎に、青少年交流等において協力をを行う事などを定めた基本合意書に始まるもので、荒尾の未来を担う「グローバル」な人材育成と確保を目的に「荒尾市青少年国際交流推進事業」に取り組んでいる。 令和5年度には、荒尾市内の中学生18名がシンガポール現地を訪問、晩晴園のパートナー校であるリバーバリーハイスクールの中学生と対面交流を行いグローバル人材の育成に努めた。</p> <p>●民俗文化財伝承・活用等事業（文化財の継承・保存・活用） 国指定重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」の一つである野原八幡宮風流を、次の世代にも郷土の芸能として保存継承していくことを目的として、練習、笠切（笠作り）、奉納に至るまでの一連の映像等を記録した。令和6年度までの継続事業として予定しており、令和6年度は普及啓発用DVD作成や解説書、パンフレット等の作成を予定している。</p> <p>●世界文化遺産の理解促進と観光資源としての活用 「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されている「万田坑」について、その価値や魅力の周知に努めるとともに、市内小中学生の郷土への誇りや愛着心を育む郷土学習の場として活用を図っている。 中でも、令和4年度から始まった万田小学校と宇城市立三角小学校による子どもガイド同士の相互交流は、資産の価値を理解するだけでなくおもてなしの心を醸成していくことに役立っている。 また、令和5年度には、炭鉱電車の一般公開を開始し、万田坑の理解促進及び、施設の魅力度向上に努めた。</p>	<p>基本的施策「3-3ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」における「文化的な環境に関する満足度」は42.8%で前年度38.6%から増加したものの、令和8年度までの目標値45%には達していない。 一方、「小中学生対象郷土学習の参加者数」はコロナ禍以降の制限緩和もあり、目標値を大きく上回る2,179人となった。 孫文と宮崎兄弟の友情を礎としたシンガポールとの相互交流は、令和4年度のオンライン交流から令和5年度は直接交流へと発展し、市内中学生のシンガポール、リバーバリーハイスクールへの訪問が実現できた。今後は、このような青少年交流を持続可能な形で定着させていく必要がある。 また、世界遺産や市内文化財の保存継承等について、資産の保全や情報発信などを継続していくためには、人材育成及び修復・活用に伴う多額の費用が課題となる。今後、予算確保等に努めながら事業を進めていく必要がある。</p>	<p>文化企画課</p>

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和5年度）	課題など	担当課
4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	学校施設等の整備	<p>●学校施設長寿命化改良事業 国のバリアフリー化推進指針を踏まえて令和4年度に更新した「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づき、バリアフリートイレ設置及び建物入口段差解消に向けた工事調査、設計を実施した。併せて学校施設におけるトイレの現状に鑑みトイレ改修の設計を行った。</p>	<p>基本的施策「4-1教育環境の整備充実」における数値目標「コミュニティ・スクールにおける学校の教育環境の整備・充実」についての評価点数は3.31点と令和4年度に続き、目標の3点以上を達成することができた。 課題として、国のバリアフリー化推進指針に基づき、本市では令和7年度末までに避難所に指定されている全ての学校施設（校舎・体育館）にバリアフリートイレの整備完了を目指して取り組んでいるが、バリアフリートイレ未設置の学校の割合が多く、必要な設置個所が多いため、設計・工事に多額の費用が必要となる見込みである。 また、「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づく学校施設の長寿命化改良工事等の大規模改修については、費用面に加え、工事の実施が学校教育へ与える影響を最小限に押さえ、教育活動が円滑に継続できる環境を確保する等の課題も考えられる。 今後、予算の確保に努めながら、学校施設の整備に継続的に行う。</p>	教育振興課
	教職員の働き方改革の推進	<p>●ICTの活用等 成績管理を行う「スズキ校務支援システム」やグループウェア等のICT活用を推進し、教職員の在校時間の適切な把握に努めた。 また、教職員の出勤簿や出張命令書等のサービスを管理する校務支援システム「ゆうnet」を新たに整備し、事務の効率化に繋げることができた。 さらに、教職員用タブレットから職員室のタブレットハンタッチでインターホンとして通話できるようにする環境整備を行った。これらの取組等により教職員の長時間労働の改善に努めた。</p> <p>●教職員以外の人材活用 スクールソーシャルワーカーの配置や特別支援教育支援員の増員を行い、教職員が質の高い教育活動に専念できる環境整備に努めた。</p>	<p>基本的施策「4-2学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進」における「教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合」は令和5年度39.8%と令和4年度の35.5%から向上したものの、令和8年度までの達成目標である100%までにはまだまだ大きな開きがある。 今後、家庭からの欠席連絡の電話受付をシステム化する等、教育のDXを推進していくことで、教職員の働き方改革を更に推進していく必要がある。 また、多様化する児童生徒や保護者の困りごと等に適切に対応していくための教職員以外の人員確保にも継続的に取り組み、教職員の負担軽減が図られるよう、引き続き人材の確保及び活用に努める。</p>	学校教育課 教育振興課

第2期荒尾市教育振興計画の取組状況に関する概評(令和5年度事業)

事務点検評価委員：日比 眞一

項番	基本方針	概 評
1	夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	<p>「学校情報化優良校の認定取得割合」が目標値を超えるなど、地道な努力の成果が見られる。タブレットや電子黒板等のICT機器の活用により、主体的で対話的な授業の拡充につながっている。</p> <p>今後は、ソサエティ5.0等も念頭に置きながら、情報リテラシーの生み出す価値について感得できる、学びの環境整備にも期待する。</p> <p>授業改善アドバイザー派遣の取り組みにより、進化型あらゆるベーシックが進展している。アンケートでは「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と思う児童生徒の割合が全国平均を上回っている。</p> <p>今後は、学力の二極化が見られることについて、その分析を進めることに期待する。</p>
2	学びを支えるためのセーフティネットを構築する	<p>荒尾市内の全ての公立中学校に教育支援センターを開設できている。不登校児童生徒の居場所づくりに取り組んでいる。不登校に限らず、様々な悩みを抱える生徒及びその保護者に対し、心の教室相談員が適切に教育相談を実施した。</p> <p>今後は、これらの支援につながらない、インボランタリー化している児童生徒やその家族への支援にも期待する。</p> <p>地域社会においても、学校神話は根強く作用して、不登校の児童生徒やその家族は弱い立場になることもある。社会的孤立を生まないように、スクールソーシャルワーカーへの理解や活用がさらに進むことも期待する。</p> <p>また、不登校は中学校で急激に増加する。中1ギャップともいわれる。小学校の時に不登校の予兆を何となく学校はキャッチする。</p> <p>今後は小学校と中学校の連携も視点にいれたい。その仕組みづくりのためにもスクールソーシャルワーカーへの理解や活用がさらに進むことも期待する。</p>
3	生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	<p>図書館移転後2年目となった。「人生100年時代を見据えた生涯学習社会」を促進する施設として機能が強化されている。来館者数は目標値を大きく上回った。学習スペースの充実により、中高生の来館は急増している。子どもたちが過ごしやすい場所にもなっている。若年層の利用増加にもつながった。</p> <p>スポーツ環境の整備や拡充が進んでいる。施設の長寿命化に取り組んでいる。安全・安心な健康の増進・推進の場として、地域の生涯スポーツの推進に寄与している。</p> <p>今後は、超高齢社会が継続する中で、スポーツを通じての健康寿命の延伸や、スポーツを通じての、地域創生やまちづくりも視野に入れた事業の検討にも期待する。</p>
4	地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	<p>数値目標「コミュニティ・スクールにおける学校の教育環境の整備・充実」において、令和4年度に続き目標値を達成している。国のバリアフリー化推進指針を踏まえて更新した「荒尾市学校施設等長寿命化計画」が推進されている。バリアフリートイレなどの設置が進んでいる。</p> <p>今後は、学校のバリアフリー化により示される、バルネラビリティへの合理的な配慮について、教職員や児童生徒が感得できる施設づくりも期待する。</p> <p>教職員の働き方改革も進めている。教職員の長時間労働の改善に努めた。</p> <p>今後は、職務の無限定性も指摘される、教員の専門性を明確にするためにも、スクールソーシャルワーカーへのさらなる理解や活用が進むことも期待する。</p>